新規事業

シリア・トルコ地震被災者緊急支援事業

― 内戦で困窮したシリアの人々にフォーカスして人命を救うための支援を届ける ―

活動地域：シリア北西部/アレッポ県・イドリブ県、トルコ/ガズィアンティップ県・ハタイ県
事業期間：2023年2月～2024年12月（1年11か月）
事業規模：893千円（総事業規模：28,319,054ドル（内トルコ15,304,500ドル、シリア13,014,554ドル））
主な支援者：個人、企業、支援組織

678,736人
シリア北西部で支援を届けた人数

64,835人
トルコで支援を届けた人数

3,299人
地震発生月にパートナー団体「Violet」が運営する病院の外来・入院部門を通じて母子保健サービスを受けた女性と子どもの数

©Mohammed Alboush/CARE

課題

2023年2月6日にトルコとシリア北西部でマグニチュード7.7規模の地震が発生。同日午前4時17分にトルコ南部を襲った地震は、1939年以降同国で記録された最大規模を観測し、その後、同日中に少なくとも78回の余震が報告されました。とりわけ、トルコ南部で発生した地震は、2011年から12年以上にわたり内戦が続いているシリアの人々を襲いました。シリア北西部では、地震発生前に、すでに410万人もの人々が人道支援を必要としており、特に、トルコとシリアの国境の両側にある地域では、およそ200万人もの人々が、簡易テントなどで避難生活を送っていました。仮住まいの衛生状態は劣悪で、水害やコレラの流行など、すでに過酷な状況にあったところに地震が発生し、避難民に追い打ちをかける形となりました。

活動内容

CAREはこの地震発生以前からシリア北西部で人道支援活動を展開しており、地震発生後も、同地域で長年活動しているCAREトルコが中心となり、現地のパートナー団体と連携して緊急支援活動を行いました。具体的には、食糧、シェルター、保健医療、生活用品配布、水と衛生、保護等の支援分野に注力しました。特に、地震が発生した2月は寒さが厳しい季節であったため、毛布やヒーターなど暖をとるための物資は非常に重要でした。さらに、がれきの撤去作業を行うとともに、家が崩壊していなくとも、地震時のトラウマや、余震の恐怖などから家に戻れない人々も少なくなく、テントの提供も行いました。加えて、安全な水、衛生キットの提供や固形廃棄物の管理などの衛生支援や、妊産婦にフォーカスした保健支援も行いました。今後の課題としては、小規模ビジネスの起ち上げや再開そして拡大による被災地の復興支援があげられます。特に女性の生活再建を支援することは、生活の様々な局面で男性と比して弱い立場にある同地の女性のエンパワメントに繋がることが期待されています。

受益者の声

© IYD

ファティマさん

「まるで地獄の門が開いたかのようでした」と、シリア北西部アレッポでの地震発生当時の様子を語るファティマさん。夫とともに、9歳の孫娘ソハさん（仮名）を育てています。ソハさんの母親は数年前に他界し、父親はチュルキエに住んでいます。「震災後、ソハは家に入らなくなりました。今は家の前の木の下に張られたテントが唯一の安心できる場所で、昼も夜もここで過ごしています。最初の地震が起きてからテントが届くまでずっと泣いていたのに、今は穏やかで笑顔です」とファティマさんはいいます。「私たちは、紛争、退避、そして今回の地震と、すべてを見てきました」と、2011年に始まった紛争から12年で家族はレバノン、トルコ、シリアの各地に離散したことを打ち明ける一方で、「この地震から生きて帰って来られたことは奇跡であり、そのことに感謝しています」と前向きに語ってくれました。